

静岡セミナ - 3 日目に感じた思いです。

過去も今も来世も、「殺してやる、殺してやる」の大闇の中にありました。「殺してやる、殺してやる」の思いしか出てきません。己一番、支配してやる、寂しかったそんな思いがすべて殺してやるでした。人と抱き合いたただ嬉しいと喜び合っているそんな人たちを嘘臭いと感じる心がありました。みんな殺してやりたかったけど、口をついて出る言葉は「田池、殺してやる」、「アルバ - ト、殺してやる」でした。なぜ田池留吉なのか。なぜアルバ - トなのか。

自分が自分の首を絞めている、この思いで苦しんできたということは分かりすぎるほど分かってきたつもりでした。田池留吉、アルバ - ト、私のこの心から消し去ろうとしてきました。喜びなんて信じない、嬉しい思いなんか嘘っぱちそうやってずっと本当の自分に背を向けてきた、心を閉ざし誰も何も信じられない心できた、そんな自分の心がこの心の中にどんどん響いてきます。

「田池、殺してやる」、「アルバ - ト、殺してやる」は偽りのない私の思いです。しっかりとあります。でもその私の心の中に言葉を超えた言葉では表現できないほどの喜びの思いもありました。完全にお手上げの大きな大きな懐を感じます。今はただそのどちらにも存在する意識の世界の不思議さを思っています。